

うちの町は日本一

山梨県・市川三郷町



① うちの町は花火日本一

- ・ 花火大会ランキングで日本一と評価される報道等もあり、各地の競技花火大会で一位を獲得する全国トップレベルの打ち上げ及び玩具花火会社が5社ある。
- ・ 「神明の花火大会」は、国内トップクラスの花火師による質の高い共演。保安距離ギリギリ、体全体で炸裂する花火を受け止める大迫力と臨場感。会場のお客様と一体化された空気感など。
- ・ 翌朝、恒例の清掃活動には350人を超えるボランティアが参加。お祭りの翌朝とは思えないほどのごみの少なさ。通行規制や係員の指示にご協力いただける日本一マナーの良い花火大会へと進化しています。

② うちの町は障子紙日本一

- ・ 市川三郷町の和紙は平安時代からの歴史がある。武田家、徳川幕府の御用紙として保護されてきた。近年は障子紙のシェア日本一を誇っている。

③ うちの町ははんこの町日本一

- ・ 明治時代、山梨の水晶採掘が始まり水晶細工の技術が進展して、はんこの産地として確立した。通信販売を全国に展開し「はんこの町」として認知されていった。そのシンボルとして日本一大きいはんこ「不動如山の印」がある。

④ うちの町は市川團十郎の資料日本一

- ・ 戦国時代の名門武田家の家臣堀越十郎家宣が武田滅亡の折、成田山に落ち延びそのひ孫が初代市川團十郎となる「市川團十郎家発祥の地」の由縁。その歴史の継承と敬意として歌舞伎文化資料館には日本一歌舞伎に関する資料を有し展示しているとの評価もある。

⑤ うちの町はにんじんの長さ日本一

- ・ およそ1万年前、八ヶ岳の火山灰が堆積してできた土壌は「のっぷい」と呼ばれ肥沃で小石などが全くないふくよかな土質。この「のっぷい」で育つ「大塚にんじん」は、長さ1メートルを超える日本一長〜いにんじん。

⑥ うちの町は絶景温泉日本一

- ・ 日帰り温泉「みたまの湯」は、甲府盆地の南端にある。標高370mの露天風呂からは、八ヶ岳、北岳などの山梨百名山、南アルプス山系の眺望に加え眼下に広がる甲府盆地の大パノラマは圧巻。2019年、夜景百選認定、2019年、日本夜景遺産認定、2019～2022年、温泉総選挙「絶景部門」4年連続日本一。

⑦ ウチの町は書道の町日本一

- 紙の町として書道日本一の町づくりを目指し中国陝西省（せんせいしょう）碑林公園などのご協力により書道の宝典とされてきた名碑 15 基を復元した「大門碑林公園」。併設する「ひらしお源氏の館」では大門碑林全国書道展が書道日本一の町づくり実行委員会により開催されている。

⑧ ウチの町は住み心地日本一

- 令和 3 年 10 月、町長就任以来、「住み心地の良い町」日本一を目指してと称し、住んでいる人が地域を愛し、地域を誇り、そして地域に暮らす意義を実感できる住民本位の社会を目指しています。

⑨ ウチの町は桑の町日本一

- シルクを生み出す養蚕が盛んだった明治中期（1898 年頃）、上野村の農業一瀬益吉は養蚕に最も適した桑の株を改良。「一瀬桑」として全国に普及した。以後、養蚕技術が急速に発展、日本一養蚕技術の発展に寄与した。
- 現在は、桑の葉からお茶を作るヘルシー産業へと進化している。

⑩ ウチの町は公式世界一周日本一

- 江戸時代、市川大門村にあった市川代官所の第 18 代森田岡太郎代官とその典医広瀬保庵は、1860 年の万延元年遣米使節団に加わり日本一早くアメリカ公式訪問を果たした。その記録が広瀬保庵により、環海航路日記、環海航路新図として残されている。

⑪ ウチの町は免疫学日本一

- 江戸時代、市川大門村の医師橋本伯寿壽は人から人へ伝染する毒気存在を認識し「三密回避」の前身となる隔離・避難の重要性を「断毒論（1810年）」として出版した。早く登場しすぎた免疫学者として評される医師である。日本一早く感染症を説いた免疫学者。

⑫ ウチの町は南極上陸日本一

- 1910年の第一次南極探検隊に加わり白瀬隊長の秘書などとして日本一早く南極大陸に上陸しペンギンのはく製を日本に持ち帰った村松進氏は本町の出身者。
- 今年（R5年）から地域おこし協力隊として市川三郷町活性化のために活動を始めた新居見励さんも南極観測隊の経験を持つ。